

第1回Premium所内研修会報告書			整理番号	
テーマ	建設分野におけるサーキュラーエコノミー			
研修会次第				
日時	令和8年6月10日(水) 16:00～17:30		参加者	30 名
場所	一般財団法人 先端建設技術センター 大会議室 WEB併用講演方式(Microsoft Teams)			
講師	大成建設(株) サステナビリティ総本部 サステナビリティ・ソリューション統括部 部長 松尾 寿峰 様			

講演内容	
世界的な気候変動の進行や自然共生への関心の高まり、環境規制の厳格化などを背景に、ESG経営が浸透している。また、近年の国際紛争等を受け、資源安全保障の重要性も改めて認識されている。こうした状況の中、企業および社会において資源循環の重要性は一層高まっており、欧州を起点に、企業が持続可能な成長を実現するための戦略として循環経済（サーキュラーエコノミー）への注目が集まっている。 我が国の建設分野においても、これまでの3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組みにとどまらず、サーキュラーデザインや再生資材の活用といった概念が広がりつつある。本研修会では、サーキュラーエコノミーの概念をバタフライダイアグラム（エレン・マッカーサー財団）を用いてご説明いただき、脱炭素にも寄与し新たな価値を創造し提供していくことを目指す「建設分野におけるサーキュラーエコノミー」に向けた取組みについてご紹介いただいた。大成建設の取組事例に加え、企業の枠を超えたサーキュラーエコノミー推進の動きについてもご講演いただき、共創と連携により新たな付加価値の創造を目指す、持続可能な未来に向けた中核的な取組として、建設領域からサーキュラーエコノミーを盛り上げる動きを感じる研修会となった。 【研修会の内容】 1. サーキュラーエコノミーとは／2. 日本や世界の状況／3. 国土交通省の取組／4. 建設業としての取組例／5. まとめ 【参考】URL TAISEI Green Target 2050 - 大成建設サステナビリティ https://www.taisei-sx.jp/environment/tgt/vision.html	

資源循環の必要性

- 世界では資源の確保や再生材の利用を求める動きが拡大し、企業の取組や法整備も進んできている。
- 資源を輸入に依存する日本。供給源が特定国に集中しているなど、資源を安価かつ安定的に入手することが困難になってきており、経済安全保障上の課題もある。
- 再生材の活用など、資源循環への取組が、日本にも不可欠な要素になってきている。

資源価格の推移

2000年を100とした指数で、ベネズエラ、オーストラリア、ロシアの原油価格は2000年代を通じて上昇を続け、2020年にはそれぞれ約500、約400、約300に上昇した。2021年には、天然ガス（LNG）の価格が急激に上昇し、約1000に達した。

日本の資源輸入額

2020年の資源輸入額は、2019年に比べ、石油・天然ガス・石炭のいずれも増加した。石油は32.4億円、天然ガスは17.4億円、石炭は3.5億円に達した。

建設分野のサーキュラーエコノミー

大成建設の取組例

これまでの調達（とにかく安く）
これからは価値に付加価値

「TAISEI Green Target 資源循環コンセプト図（大成建設）」より引用

建設副産物巡回回収システム

建設現場A、B、C、Dの建設副産物を回収し、リサイクル施設で処理し、再生材として建設現場に供給する。

大成建設の取組例

再生材の活用による環境負荷の低減とコスト削減を実現。

- 第52回「環境賞」受賞
- 第13回プラチナ大賞「優秀賞 資源循環活用賞」受賞
- 第33回地球環境大賞「日本経済団体連合会会長賞」受賞
- R6年度「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」内閣総理大臣賞受賞

再生プラスチックの水平リサイクル

大成建設の取組例

【三角コーン】（株式会社八木隆との連携）

再生三角コーン製造実験
製造数 1,800本（作年度350本）

【実績】回収（東京・横浜・千葉）
製造数 1,800本（作年度350本）

※当社HPより引用
https://www.taisei.co.jp/about_us/wm/2024/240119_9867.html
https://www.taisei.co.jp/about_us/wm/2025/251105_10759.html